

会員 各位

一般社団法人 日本環境アセスメント協会
教育研修委員会委員長 山崎 崇
セミナー委員会委員長 今関 哲夫

2020年度JEAS第16回技術交流会(Web開催)における 技術紹介申し込み受付のご案内

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

会員相互の技術交流および業務の活性化ならびに会員の有する環境アセスメント関連技術の内外への発信等を目的として、第16回技術交流会を下記の要領で開催致します。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し、新しい試みとしてWeb開催いたします。

技術交流会の開催案内については当協会HP、環境新聞に掲載するほか、関係官庁、自治体、学会等にも行い、発表内容については当協会HP、JEASニュースに掲載します。特に、JEASニュースは、会員のほか、約1,300箇所の関係官庁、自治体、大学、学会等へ配布していますので、発表者や所属企業のPRにも大いに役立つものです。

技術交流会での発表演題は、添付の資料1の通り多岐にわたります。この技術交流会は、技術だけでなく、会員内外の交流の場、会員会社のPRの場、ビジネスチャンス、若手育成の場としても活用することを期待しております。

つきましては、ご多用中のことと拝察いたしますが、なにとぞ奮って、技術紹介の申し込みをくださいますようお願い申し上げます。

－ 記 －

1. 名 称 2020年度JEAS第16回技術交流会(Web開催)

2. 開催趣旨

環境アセスメント業務は事業別・環境要素別に、調査計画から現地調査・解析、予測・評価、環境保全対策、報告書作成、住民説明等、幅広い技術とノウハウが必要です。

当協会の会員は、環境アセスメントに関するそれぞれの得意な分野と技術を有しており、これら蓄積された技術やノウハウについて、会員相互に紹介・PRすることにより、会員各社の業績向上・発展に資するものと考えられます。また、会員の有する技術を内外に発信することにより、環境アセスメントの技術普及や人的ネットワーク形成などを図ることができるものと考えられます。

3. 開催日時 令和2年12月3日(木) 13:30～17:00(予定)

4. 開催方法 口頭発表：JEAS技術交流会専用HP上でのライブ配信

展示発表：ポスター、リーフレット、パンフレット等のHP上での公開

※ 技術交流会の参加申し込みをいただいた方に、技術交流会専用URLをお送りし、視聴いただく方式です。

5. 技術紹介の内容

- (1) 環境アセスメント関連技術
- (2) その他自社の環境配慮型技術一般

昨年度の技術交流会アンケートにおいて、「今後、発表してほしい技術テーマ、内容」としてあげられたものを以下に記載します。

- ・環境DNA・NGS
- ・IoT と環境調査、分析、環境技術との関連
- ・AI と環境調査、環境技術との関連
- ・海外ミティゲーション事例
- ・生物多様性、SDGs、地域創生
- ・調査の新技术、最新のセンサー、機器等
- ・再エネ（太陽光、水力、地熱、風力等）の開発初期における環境に係る取り組み
- ・都市環境の評価手法（風環境、ヒートアイランド、都市景観、交通等）
- ・ドローン、GIS
- ・鳥類 3D カメラ
- ・自然環境の保全技術
- ・グリーンインフラ
- ・バイオリギング

6. 技術紹介の形式

- (1) 口頭発表（プレゼンテーション） 発表時間 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）
 - ・JEAS 技術交流会専用アドレス（Teams を使用）でのライブ配信を予定しています。
 - ・口頭発表は、下記、JEAS 会議室にて発表を行っていただきます。発表者は発表 30 分前に会議室にご集合ください。ライブ配信はスタッフが行います。
 - ・発表後には質疑応答の時間を設けます。
- (2) 展示発表
 - ・事前にお送りいただくポスター、リーフレット、パンフレット等の HP 上での公開を予定しています。

口頭発表会場

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2 番 1 3 号 US 半蔵門ビル 7 階

一般社団法人 日本環境アセスメント協会 会議室

<https://jeas.org/access/>

7. スケジュール

- | | |
|----------------------------|--------------|
| (1) 技術紹介申し込みの期限 | 10 月 23 日(金) |
| (2) プログラムの決定・技術交流会参加申し込み開始 | 11 月上旬 |
| (3) 技術交流会 | 12 月 3 日(木) |

8. 申込方法

別紙申込書に必要事項を記入して、令和 2 年 10 月 23 日(金)までに協会宛に e-mail (asekyo@jeas.org) によりお申し込みください。

9. その他

- (1) 発表時間は申し込み件数により調整させていただくことがあります。
- (2) 会員からの発表希望の状況により、非会員からの応募を受け付けることがあります。
- (3) 技術交流会への参加募集は非会員も対象とします。
- (4) 発表内容については、後日、当協会 HP (<https://jeas.org/activity11/>)、JEAS ニュースに、発表演題、発表者名、所属、発表概要を掲載します。

JEAS 技術交流会は JEAS—CPD 制度の認定プログラムです。

技術交流会における口頭発表演題

<p>第15回 (2019年)</p>	<p>1. 「携行型PCRを用いた環境DNA分析手法の開発」 パシフィックコンサルタンツ株式会社 渡部健 2. 「紫外線LEDを用いた小型軽量ライトトラップの開発」 特定非営利活動法人 野生生物調査協会 新里達也*1・後藤健一*2・酒井孝明*3・高木圭子*1・谷川俊二*4・坪山聡*5・吉田 馨*6 (*1(株)環境指標生物、*2(株)地域環境計画、*3(株)環境アセスメントセンター、*4(株)応用生物、*5(株)緑生研究所、*6(株)エコリス) 3. 「音声解析技術の活用による生物の生息調査手法」 富士通九州ネットワークテクノロジーズ(株) 斎藤睦巳 4. 「LiDARとGISを用いた森林インベントリ把握と展望」 FRSコーポレーション(株) Park Yong Seuk 5. 「ダム事業における保全対策事例～ビオトープ整備の効果検証」 八千代エンジニアリング(株) 坂口 幸太 6. 「東北の汽水湖でのアサリ資源回復に向けた調査検討事例」 (株)大林組 技術研究所 大島 義徳 7. 「土壌汚染対策法の改正点と措置の技術的手法に関する考察」 アジア航測(株) 三ツ倉 理恵</p>
<p>第14回 (2018年)</p>	<p>1. 「エコロジカル・ランドスケープデザイン手法を活用した地熱発電所計画地シミュレーション支援ツールの開発」 清水建設(株) 橋本 純 2. 「グリーンインフラの社会実装に向けた課題と民間事業者の役割」 いであ(株) 幸福 智 3. 「瀬切れ河川における魚類の生息状況変化に関する調査・検討」 八千代エンジニアリング(株) 林 宏樹 4. 「環境DNA技術の紹介～外来淡水エビを例として～」 (株)日本海洋生物研究所 平岡 礼鳥 5. 「貝殻ポーラスコンクリート「カルベース」の増殖効果について」 海洋土木(株) 内山 幸之助 6. 「3次元カメラ手法による鳥類飛翔調査」 (一社)電力中央研究所 竹内 亨</p>
<p>第13回 (2017年)</p>	<p>1. 「携帯端末を活用した住民との合意形成ツール」 清水建設(株) 宮瀬 文裕 2. 「デジタル画像を用いたアオコ判定システムの自動化に向けた基礎的検討」 八千代エンジニアリング(株) 岡本 佳子 3. 「風力発電所に係る調査・予測の取組み」 ムラタ計測器サービス(株) 大西 裕介 4. 「ドローンを利用した森林観測技術 -ミャンマーでの研究事例-」 アジア航測(株) 和田 幸生 5. 「外来種に頼らないで、のり面緑化をどう行うか」 (株)大林組 寺井 学</p>
<p>第12回 (2016年)</p>	<p>1. 「船舶レーダーを用いた鳥類調査へのとりくみ」 FRSコーポレーション(株) 徳島 秀彦 2. 「環境アセスメントにおけるキノコ・蘚苔類・地衣類調査」 (株)環境指標生物 池田 英彦 3. 「身近な危険生物「スズメバチ」について」 (株)建設技術研究所 野中 俊文 4. 「テレビ電波受信障害の変化について」 (株)ヤマトテレビシステム 横溝 孝幸 5. 「水底放射能測定装置「みなそこ」による底質土壌の放射性セシウム濃度オンサイト測定」 (株)環境総合テクノス 生野 元昭</p>
<p>第11回 (2015年)</p>	<p>1. 「生物多様性配慮型、企業緑地の動向とABINC(エイビング)認証制度について」 (一社)いきもの共生事業推進協議会 安斉 健雄 2. 「バルーンを用いたコウモリ類の飛翔高度の計測」 アジア航測(株) 鈴木 健一 3. 「生物多様性簡易評価ツール「いきものコンシェルジュ」の開発」 大成建設(株) 渡邊 千佳子 4. 「常磐線特定環境影響評価」 (株)復建技術コンサルタント 池澤 紀幸 5. 「火力発電所用大気アセスメント支援ツールの開発」 (一財)電力中央研究所 佐藤 歩 6. 「インターネットを利用した気象観測システム」 (株)風工学研究所 猿川 明 7. 「虫を食べる～昆虫食の紹介～」 (株)建設技術研究所 野中俊文 8. 「放射性物質の環境影響評価のためにホットスポットと平均線量率で測定評価する方法」 エヌエス環境(株) 内田英夫</p>
<p>第10回 (2014年)</p>	<p>1. 「指向性アナウンス安全看板の適用事例紹介」 清水建設(株) 宮瀬文裕 2. 「水底放射能測定装置「みなそこ」の開発」 (株)環境総合テクノス 生野元昭 3. 「最新技術を用いた道路環境アセスメントにおける事後調査手法」 (株)地域環境計画所 園田陽一 神奈川県 松江正彦 国土交通省国土技術政策総合研究所 上野裕介、栗原正夫 4. 「沿岸環境保全を通じた社会・経済・環境の好循環～横浜ブルーカーボンの挑戦～」 八千代エンジニアリング(株) 岩本 淳 5. 「プラスチック標本で生き物を実感する」 日本エヌ・ユー・エス(株) 岡 薫・堀内 和司 6. 「野生鳥獣の効率的な利用～エゾシカを例として～」 (株)建設技術研究所 野中俊文</p>

技術交流会における展示発表演題

第15回 (2019年)	1. 「携行型PCRを用いた環境DNA分析手法の開発」 パシフィックコンサルタンツ株式会社 渡部健 2. 「紫外線LEDを用いた小型軽量ライトトラップの開発」 特定非営利活動法人 野生生物調査協会 新里達也*1・後藤健一*2・酒井孝明*3・高木圭子*1・谷川俊二*4・坪山聡*5・吉田馨*6 (*1(株)環境指標生物、*2(株)地域環境計画、*3(株)環境アセスメントセンター、*4(株)応用生物、*5(株)緑生研究所、*6(株)エコリス) 3. 「紙素材の仮設資材の適用事例の紹介」 清水建設株式会社 宇野正敏 4. 「バーズアイ・リサーチ研究会の活動の紹介」 バーズアイ・リサーチ研究会 永翁智雄*1・佐々木孝太郎*2・吉田馨*3・見目尚之*4・鈴木雅人*1・酒井孝明*1・安藤裕子*2・浦島淳吉*2・水谷貴行*3 (*1 株式会社環境アセスメントセンター、*2 株式会社地域環境計画、*3 株式会社エコリス、*4 株式会社エスアイエイ)
第14回 (2018年)	1. 「バイオリギングを用いたトラフグの産卵生態調査事例」 三洋テクノマリン(株) 2. 「環境分野におけるUAV活用の検討」 ムラタ計測器サービス(株) 3. 「エコロジカル・ランドスケープデザイン手法を活用した地熱発電所計画地のシミュレーション支援ツールの開発」 清水建設(株)、(株)風景デザイン研究所 4. 「市民参加の「人と自然とのふれあい調査」～(公財)日本自然保護協会の取り組みより」 (公財)日本自然保護協会
第13回 (2017年)	1. 「EADASについて」 環境省 2. 「ミャンマーにおける森林減少・劣化防止のための支援活動―ドローンと衛星リモートセンシングを利用した森林モニタリング事例―」 アジア航測(株) 3. 「アニマルパスウェイ製作・建設ガイド」 (一社)アニマルパスウェイと野生生物の会 4. 「緑の認定 SEGES (シージェス) 都市のオアシス」 (公財)都市緑化機構
第12回 (2016年)	1. 「ABINCの活動理念、認証サイト一覧・分布」 (一社)いきもの共生事業所推進協議会 2. 「水質放射能自動測定システムの開発」 (株)環境総合テクノス 3. 「水底放射能測定装置「みなそこ」による底質土壌の放射性セシウム濃度オンサイト測定」 (株)環境総合テクノス 4. 「ワイヤレス自動撮影カメラの紹介とクラウド活用の提案」 (株)地域環境計画 5. 「VRを用いた景観検討」 日本工営(株)
第11回 (2015年)	1. 「環境調査への適用を目的とするGNSS利用地点設定システムの開発」 (株)環境研究センター
第10回 (2014年)	1. 「指向性アナウンス安全看板の紹介」 清水建設(株) 2. 「プラスチックネーション標本で生き物を実感する」 日本エヌ・ユー・エス(株) 3. 「水底放射能測定装置「みなそこ」の開発」 (株)環境総合テクノス
第9回 (2013年)	1. 「海洋環境調査技術の紹介」 (株)環境総合テクノス 2. 「投入設備一体型溶融炉によるアスベストの高効率無害化処理システム」 飛島建設(株) 3. 「Honda 寄居新工場における生物多様性保全に係る取り組み」 (株)ポリテック・エイディディ 4. 「国営昭和記念公園における生物関連情報の分析及び活用」 (株)緑生研究所
第8回 (2011年)	1. 「CCSモニタリングシステムの開発の紹介」 (株)環境総合テクノス 2. 「日本のレッドデータ検索システム・高機能自動撮影カメラ」 NPO法人野生生物調査協会 (株)地域環境計画 3. 「POINTSCOPEを使った生態調査手法について」 東電環境エンジニアリング(株) 4. 「J E A S協会活動の紹介、頒布図書紹介」 (一社)日本環境アセスメント協会

技術紹介申込書

下記のとおり、技術紹介の参加を希望します。

宛先：一般社団法人日本環境アセスメント協会

E-mail：asekyo@jeas.org FAX：03-3230-3876

タイトル		
発表者 (代表者)	氏名	
	所属	
	TEL	
	メール	
発表者 (共同研究・ 共同発表の場合)		
技術紹介の種類 (複数可)	<input type="checkbox"/> 口頭発表	<input type="checkbox"/> 展示発表
技術紹介の要旨 [400字程度] (開催案内時に「口頭発表 要旨」又は「展示内容」と して使用いたします)		

注) 1件の発表に対し申込書1枚としてください。